

**研究課題：**特発性ネフローゼ症候群として治療開始された膜性増殖性糸球体腎炎型 IgA 腎症の検討

## 1. 研究の目的

IgA 腎症は最多の慢性腎炎として知られる疾患で、その診断や治療には多数の研究がなされ、典型的な症例については確立されています。一方で、典型的でない年齢や症状で発症した場合には診断が難しく、他の疾患と診断されて本来の治療を受けるまでに時間がかかってしまう方が存在します。典型的でない様式の一つである「膜性増殖性糸球体腎炎型」の場合、特発性ネフローゼ症候群として初期治療が開始されることが多いため、これらの症例を検討し早期診断に有用な検査所見や症状経過、また治療の効果や適切な治療などを検討します。

## 2. 研究の方法

2010年1月から2021年12月までに、当初初発のネフローゼ症候群と診断され治療を開始されたのち、腎生検で膜性増殖性糸球体腎炎型 IgA 腎症と確定診断された方を対象とします。

診療録から、年齢、性別、体格、病歴（症状あるいは検査による異常所見の発症時期、初期治療など）、病理検査所見、行われた治療の内容、各時期における血中アルブミン・尿蛋白・腎機能などの血液・尿検査所見（当院初診時、腎生検時、治療直後、最終受診時など）等の情報を調べまとめます。

## 3. 研究期間

倫理委員会で承認を得られた日から西暦 2022 年 7 月 31 日まで。

## 4. 研究に用いる資料・情報の種類

長期間改善していた後に再発した方に関して上記 2. に記載したような項目を、カルテの記載および検体検査結果から調べまとめます。画像（個人情報は一切含まない）が論文内に掲載されることがあります。

## 5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用されることはありません。

## 6. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター

研究責任者：腎臓科 科長兼副部長 藤永周一郎

研究分担者：腎臓科 医長 大貫裕太

研究分担者：小児科専攻医 青山周平

## 7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2022年7月31日にまで下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構

埼玉県立小児医療センター

医事担当（代表 048-601-2200）